

プロジェクター受注に必要な基礎用語

・設置条件（投映距離、接続端子、配線距離、音声）

- ・プロジェクターの機種が決まっても、設置条件によっては使用できない場合がある。（投映距離）
- ・パソコンとの接続はほとんど確認の必要はないが、念のため端子の確認をしておく方が望ましい。（接続端子）
- ・パソコンとプロジェクターとの距離によって、オプションが必要。（配線距離）
- ・スピーカーを内蔵しているが、音量は小さい。内蔵していない機種もある。（音声）

条件	内容
・投映距離	<ul style="list-style-type: none">・投映できる距離は機種によって制限がある。・最近のモバイルタイプは、広角化（少ない距離で大きく映す）の傾向がある。・レンズを交換できる機種は、逆に投映距離によってレンズを選択する必要がある。
・接続端子	<ul style="list-style-type: none">・最近のパソコンは、Win/MACとも統一された接続端子を搭載している。（2種類）・プロジェクターも同じ端子を装備しており、付属のケーブルでほとんどの場合は配線が可能。・5年以上昔の、PC-9821やMACには、他の種類の端子がついている場合がある。
・配線距離	<ul style="list-style-type: none">・商品に標準付属のケーブルは、1～2mのRGBケーブル1本と、3色のピンケーブル1本のみ。・講演などでは、スクリーン横の演台で講演することが多く、配線が長くなることが多い。・15m以内ならケーブル1本で済むが、それ以上になるとオプションが必要になる。
・音声	<ul style="list-style-type: none">・パソコン/ビデオとも、音声を内蔵のスピーカーで出力することができる。（一部除く）・標準でビデオ用ケーブルは付属しているが、パソコン用音声ケーブルは別途異体が必要。・内蔵スピーカーは約10～30人程度の対応力しかなく、外部機器を使用するほうが望ましい。

